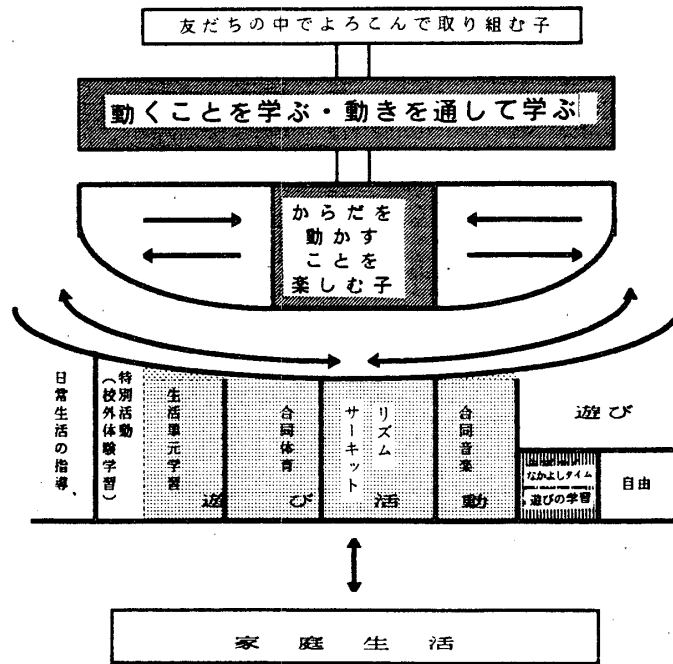


③ 本年度の小学部の教育課程の中での遊び活動



左記の図は、まず「からだを動かすことを楽しむ子」にするために、すぐ下のリズム・サーキットや合同体育で直接からだを育てていき、外側にいくほど学んだ動きを生かして動くという主体性ができたり、応用的な動きになっていく。また、外側の遊びや生活単元学習で盛り上げた意欲や動けたという喜びが、サーキットや体育での活動を活発にさせ、より高い次元へと進んでいくことを示している。つまり、各指導形態及び教科・領域が密接に関連しながらからだづくりが行われていくことを示している。また、網かけの部分の生活単元学習や合同音楽、合同体育、リズム・サーキットで遊び活動を取り入れていく。なかよしタイムの時間では、遊びそのものを教え定着させる。ということも示している。

※ 網かけの教科領域は遊び活動を含んでいる。斜線は遊びを教えたり定着させる時間である。

図2 各指導形態の担う役割とそれらの関わり方及び構想図

【4】 児童の実態

(1) 実態把握について

研究を推進するにあたって、我々は次のような考えで調査し、指導に生かそうとした。

- ・調査が調査で終わらないよう、その目的をはっきりさせて調査し、結果を指導の中に生かす。
- ・発達段階に目を向け、健常児が各発達段階で示す特徴をふまえた指導法を取り入れていく。
- ・能力の落ち込みに目を向け、できない面への直接の指導のみをするのではなく、それを引き上げていける手がかりになる能力にも目を向ける。
- ・データは学部単位で処理をし傾向をとらえ、合同学習の指導にも生かしていく。
- ・基礎データを残し、指導後の実態と比較する。

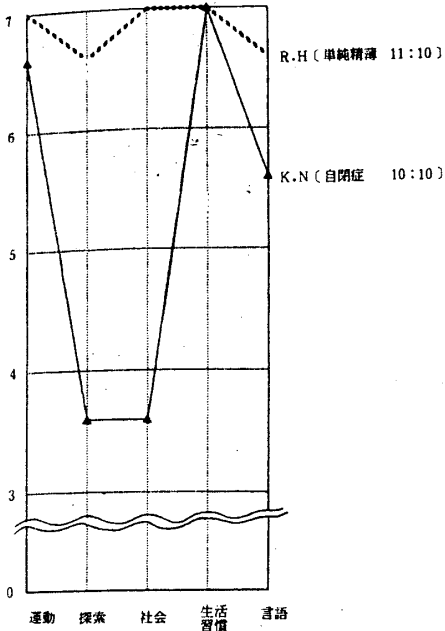
こういった考えから、今年度は遠城寺式乳幼児分析的発達検査、津守式発達検査（一部の児童）ムーブメント教育の達成課題（からだづくりの課題）の達成度を把握するためMEPA（ムーブメント教育プログラムアセスメント）を実施し、指導の手掛りとした。また遊び活動を取り入れた授業づくりをするにあたって、遊びに関する実態調査及び把握に努め授業づくりに生かす姿勢を大切にしたい。

(2) 主たるあわせもつ障害

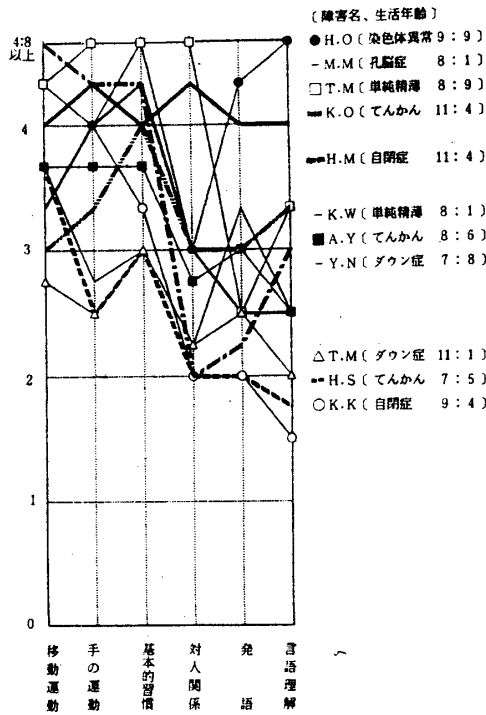
障害名	自閉症	てんかん	ダウン症	染色体異常	孔脳症	なし(単純精薄)	総数
人数	3名	4名	2名	1名	1名	3名	14名

(3) 諸検査による児童の実態 (いずれも平成3年5月実施)

① 遠城寺式乳幼児分析的発達検査



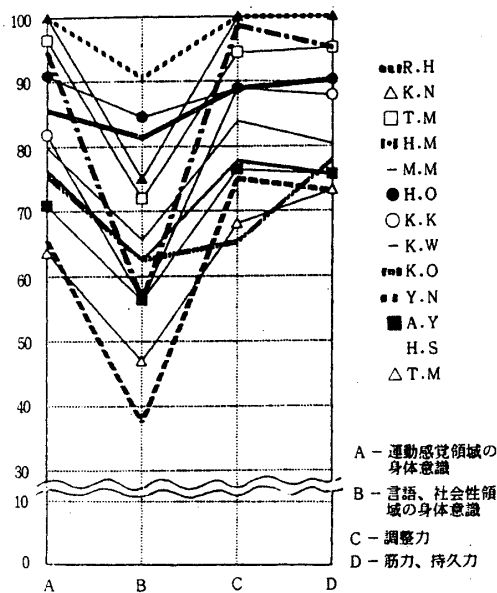
② 津守式発達検査



発達検査・MEP Aの結果から

- 小学部の児童の発達は2歳～6歳6ヵ月である。
- 個人差や個人内差が大きい。
- 全体的に運動面、基本的生活習慣に比べ対人関係や言語面で劣っており、自閉的傾向にある児童については、その偏りが顕著である。

③ MEPAクロスインデックス表



- 運動領域のばらつきに比べ、言語領域におけるばらつきが大きい。
- MEPAクロスインデックス表から、言語・社会性における身体意識の項目で特に落ち込みがみられる。
- MEPAプロフィール表 (P. 31参照) から、第4ステージ (粗大運動確立ステージ) を通過中の児童が多いが、個別の配慮をしながら第5ステージ (調整運動ステージ) を充実させていってよい集団といえる。
- とびこしグループがあり、とびこしを配慮した取り組みが必要である。
- 相対的に遅れている言語や社会面も身体にアプローチする中で押し上げていくことができると考えられる。

(4) 遊びの実態

- 図4に示すように、遊びの段階に大きな差がある。しかし、仲間遊びの段階の児童もみため・つもり活動もするし、感覚遊び段階の児童もみため・つもり活動を意図的に味わわせることも必要である。
- 設定しない自由遊びの場合、同じ段階にいる児童でも好んでする遊びが異なる場合が多く、なかなか集団遊びへと発展できない。
- 各々の段階で遊びを楽しめる児童たちだが、経験不足から本来楽しめうる遊びができない児童が

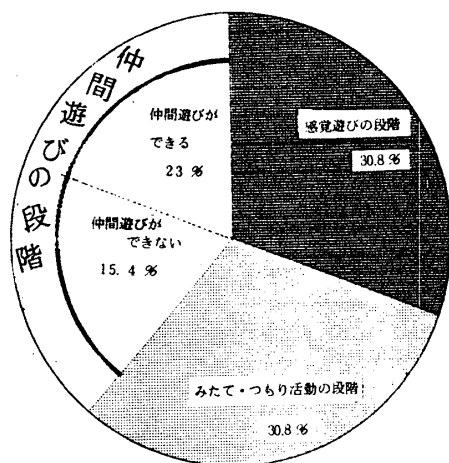


図4. 小学部児童の遊びの実態

多い。

- みたて・つもり、仲間遊びの段階の児童は、誘えばある程度遊ばせることができるが、自閉症児に関しては難しい。

表2. 各遊びの段階における児童の好んでする遊び

感覚遊びの段階	みたて・つもり活動の段階	知的には仲間遊びのできる段階	
		仲間遊び	仲間遊びができない
<ul style="list-style-type: none"> • 三輪車、自動車、自転車 • 水遊び、本を読む、ブランコ • カード並べ等 • 自転車、パズル、ビデオ 	<ul style="list-style-type: none"> • 自転車、水鉄砲、砂遊び • ままごと • テープを聴く • 本、虫を見つける、走る • 砂遊び、パズル 	<ul style="list-style-type: none"> • 自転車 • パズル • まなぶくん • トランポリン 	<ul style="list-style-type: none"> • 自動車、ままごと、まなぶくん • パズル、水鉄砲 • 工作 • おいかけっこ • 友だちの世話

(5) 実態調査からの考察 (授業づくりをするにあたって)

- 3歳前後の発達の段階であるみたて・つもり活動を重視しながら、さらに発達の開きをカバーするような指導内容や指導の手だてをとることが必要である。
- 発達の段階に応じた遊び活動を考えていかななくてはならない。
(同一教材複数課題、複数教材同一課題)
- 個人差・個人内差に対する配慮をしていかななくてはならない。
- 学校生活全般のなかに遊びを取り入れることによって、対人関係が育っていくことができると考えられる。
- 感覚遊びの段階の児童でも、教師が仲立ちしたり、興味のある題材を設定することで授業に意欲的に参加でき、集団の中で社会性を引き上げていくことができると考えられる。
- 将来の見通しをもって少し高い遊びの段階の雰囲気味わわせることも大切である。

【5】 実践事例

——授業づくり——

〔1〕 小学部の授業づくりについて

(1) 視点

遊び活動を授業の中に取り入れることは既に述べたが、昨年度に引き続き今年度も実践の場としての授業づくりを、次の視点で行った。

①どんな遊びを選定するか (遊びの題材)。②どんな方法で遊ばせるか。

③個に応じてどのような手だてをとるか (同一教材複数課題あるいは複数教材同一課題)。

具体的には各領域教科での実践の中で述べていきたい。

(2) 遊びの時間 (なかよしタイム) の導入

遊びを教える時間 (なかよしタイム) を設定して、遊びを教え遊びを定着させていった。そして、